

移りかわる暮らしと地域資源



薬師寺小学校の木造校舎

自動車を所有している家庭がまだ少ない昭和40年代頃までは、薬師寺小学校の教員は薬師寺地区に住んでいる方が多く、自転車通勤したり、中には石橋からバスで通っている方もいました。先生と生徒が同じ地区で生活しており、日常的に顔を合わせていたため、その関係性は濃く、当時の学校は地域コミュニティそのものだったと言えるかもしれません。



自治医大駅(昭和58年(1983年)開業)ができる以前は、薬師寺地区の公共交通機関はバスが主でした。薬師寺からバスが出ていたため買い物や通学など石橋が生活圏になっている人も多く、そこから電車に乗り換えて宇都宮市へ出かけることができました。また、仁良川でバスを乗り換えて小金井や小山に行くこともできましたが、日常の買い物は薬師寺の中心を通る県道結城石橋線沿いに並ぶ商店が担っていました。



薬師寺小学校区の市民が集まる行事といえば、天王様と呼ばれる八坂神社の祇園祭です。7月の開催期間中はお仮屋という建物に神輿を飾り、地域の人たちが参拝します。薬師寺地区をお囃子と一緒に神輿が練り歩き、地域が最もにぎわい、多くの人と一緒に顔を合わせる機会でもあります。昔は、お祭りのときに民家の縁側で炭酸まんじゅうが振舞われることもあり、子どもたちの楽しみでした。

下野市の特産品と言えばかんぴょうです。薬師寺小学校区でも昔は庭先でかんぴょうが干されている光景が夏の風物詩であったそうです。最近ハウスの中に干すことが多く、住宅の塀も高くなったので、以前ほど目にすることはなくなりました。今でも



薬師寺地区ではたくさんのかんぴょう畑を見ることができます。



薬師寺小学校区は、グリーントウン地区の整備により人口が大きく増え、昭和63年(1988年)に祇園小学校区に分かれ、そこからさらに平成7年(1995年)に緑小学校区に分かれました。最近仁良川地区の整備により、南河内小中学校でも同地区の小学生が増え、生徒の半分ほどが仁良川地区から通学しているというクラスもあるそうです。

祇園小学校ができる前の薬師寺小学校区はとっても広い学校区だったので、家から学校まで遠い生徒は歩いて通学するのが大変だったそうだよ。



つながッテルね! 条例10条

(協働)

第10条 市民、議会及び市は、まちづくりを推進するために、それぞれの立場を理解し、目的を共有し、相互に依存することなく力を合わせて、その実現に努めるものとする。